

# 炊き出しボランティア通信 vol60

2012, 5月

**炊きだし** 5月12日(土) 9:00 元寺小路教会に集合・準備。12:00 炊き出し

晴、好天。お出でになった方52名。同好会からのボランティアは新人の1年生5名と2年生3名参加しました。仙台S学園高校3年生も2人参加し、はじめてと言いつつ落ち着いた様子での取り組みをしていました。本校からはじめて参加の1年生も熱心な参加ぶりでした。バラエティにとんだおむすびの形はそれまで見たことがないほどでした。聞いたら人生ではじめておむすびを握ったというのが何人もいました。得がたい経験となりました。



「おむすびはこんな感じかな?」「うーん、そんなもんかな。」



「これでいいですかねえ?」

「どれどれ先輩が見ましょう。」

○私は初めてのボランティア活動だったので、わからない事ばかりでした。その中でも自分ではテキパキとできたと思います。反省点は、はじめてということで、自分で考えて行動することができなかったことです。次回は今回の反省点を生かせるようにしたいです。(1年)

○初めてで大変だったけど、ちゃんとやることができたからよかったです。次回はもっとよくできるようにがんばりたいです。(1年)



「いらっしゃいませ。」



「ちょっと緊張するわね。」



「どれどれ、お任せを……」



「私たちはオッケーよ。」

○今回の初めての参加によって、ホームレスの方たちへの偏見がなくなりました。たくさん声をかけていただいたのですが、私の方からはあまり声をかけることができなかったのもので、次回頑張ります。(1年)

○私にとって同好会での炊き出しボランティア参加は初回でした。おにぎりづくり、後片づけなど、他のボランティアの方々やホームレスの皆さんのお役に立てられたと思うので、よかったです。(1年)

○初めてのことばかりで素早く動くことができなかつたと思います。ホームレスの皆さんは自分が思っていたより明るく、気軽に話しかけてくださったので、嬉しかったです。大きな失敗もなく炊き出しできたのでよかつたと思います。今回は仕事をすることで精一杯だったのですが、次回は笑顔で接することができるように頑張りたいです。(1年)



ちょっとベテランと、新人でした。

献品： 小学校から今回もたくさんの献品を預かりました。高校職員からもいただきました。ありがとうございました。

## 夜回り 5月9日(水)20:35~21:40

会議が長引き、いったん帰宅の暇なし。向かう途中のコンビニでパンをかじって行った。

国際センター裏ベンチ。いつもの方がやすんでいた。1年通っていて顔を見たこともない。Hさんの話では、まだ若い30代の人。家はあるが大借金をしたため家族から返済終わるまで帰ってくるな、と追い出され、もうすぐそれが終わるとのこと。話が本当ならば、それがいい。もうすぐ梅雨が来る。それにしても、この周辺の明るさに不審感をもった。西公園もそうだ。いつも半分以上真っ暗な中を電灯頼りに歩いていたのに、やけに明るい。ライトが増えた。世間は節電で騒いでいるのに、逆行している気もした。何かあるのだろうか、分からない。

センター表の公園ベンチ。「おじさんどこからでしたか？」と声をかけた。「…岩手」岩手のどこ？ 自分も岩手の出ですよ、と言いそうになって堪えた。聴かれたくないこともある。かわりに、味噌スープをさし上げながらまじまじと顔をながめた。私の郷里にいる顔だった。「おじさん内陸でしょ？」「ハイ」これだけ言った。

大橋下は長靴のいる季節に入った。草丈が伸び、カエルの声が響きわたる。ヘビが出てもおかしくな

い。「Kuさん。」呼ぶと、ゴミ山の向こうで帽子がゆらめいた。タバコの火が赤く燃えている。何か言いながら近づいてきた。よく聞き取れない。「いやあセンセ、そんないいですから。いつもお世話様ですセンセ」何を話しても要領を得ない。味噌スープ？ いらぬ。おむすび、卵？ 他人にやってくれ。なぜ。――要するに、Kuさんは酔っばらっていた。「ありがとうございました。」ぺこんとお辞儀していた。早々に切り上げた。

西公園。ライトが煌々としているベンチに見かけない人が寝ていた。「こんばんは、夜回りです。味噌スープいかがですか？」中年の男性顔を上げて、しばらくじっと見つめられた。間。「いりません。」信頼をとれなかった。――話しかけたとき、自分はどんな顔をしていたんだろう？ 疲れた顔か？――悔しい。

夜回りは毎月第2水曜日におこなっています。炊き出しはその週の土曜日です。いずれも、カトリック正義と平和仙台協議会（代表W）がおこなっている活動に、ボランティアで参加させていただいています。興味のある方は、ご連絡いただいたら、ご一緒いたします。

文責 高橋 覚